

在日朝鮮人被爆者にとっての ヒロシマ



リシルグン
講演：李実根

在日本朝鮮人被爆者連絡協議会会長
広島県原水禁常任理事
広島平和教育研究所研究員

■ 李実根さんとの対話

コーディネーター：太田 修（同志社大学コリア研究センター）

広島と長崎で被爆した朝鮮人は、それぞれ約5万人、2万人と推定されている。なぜこれほど多くの朝鮮人が被爆しなけりばならなかったのだろうか。被爆した朝鮮人の実態調査はなされたのだろうか。朝鮮人被爆者の尊厳は回復されたのだろうか。「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」はかつてなぜ平和公園の外におかれたのだろうか。韓国や北朝鮮に帰った被爆者はどのようになったのだろうか。

李実根さんは、在日朝鮮人被爆者として、長いあいだ、日本国内、海外、国連軍縮総会、国連人権委員会などで、朝鮮人被爆者の救済、核廃絶を訴えてこられた。李実根さんとの対話をとおして、朝鮮人被爆者をめぐる「なぜ」について、そして今日の平和と核をめぐる状況とについて、考える集いとして。

日時： 12月5日(木)

18:00-20:00

会場： 志高館 SK110教室

入場無料・申込不要

共催： 同志社大学コリア研究センター

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科

Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp